

## 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 2 年度目)

### 1. 研究課題

(和文) アジアの通商ネットワークと社会秩序

(英文) A Study on the making the social order under the Asian commercial networks

### 2. 研究代表者

(氏名) 籠谷直人

### 3. 研究期間

平成24年4月 から 平成27年3月 まで

### 4. 研究目的 (400字程度)

本共同研究班は、平成24年度から発足した。共同研究は、その時代を17世紀から19世紀の300年間を対象にしている。研究の目的は、熱帯の東南アジアを対象にして、「移動」を「生存の戦略」に選び取った、華僑華人（以下、華人と略す）の社会動態に検討を加えることにある。とくに、ジャワで活動した華人らの公文書類を通して、華人が、熱帯という自然環境や、植民地権力が創造した諸制度に対応して作り出した、社会秩序形成を議論したい。

参加する研究者は、それぞれに歴史学の専門分野をもち、それぞれに使用する言語能力をもっている。中国語、オランダ語、インドネシア語などを駆使しながら資料調査にあたってきた経験を有する研究者を擁して、それぞれの専門の壁を低く設定している。

そして、近世から近代にかけての「アジア間交易の形成と構造」をとらえ、あわせて交易圏を構成する、「港市」、「互市」、「自由貿易港」の社会秩序を議論することも目指している。海上の交易拠点を議論しながら、インドのコーチン、マレーシアのマラッカ、タイのアユタヤ、ベトナムのホイアン、ジャワのバタヴィア、華南のマカオ、台湾の台南、日本の長崎・平戸などが商人のネットワークを通して連動していたことを示したい。

アモイ大学の東南アジア研究院の協力をえて、福建から日本やインドネシアにのびる商人、モノ、文化の交流を描くことが可能になるように思える。

### 5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

第二年度（2013）の平成25年度は、初年度（2012年度）に引き続き、国内外の歴史研究者の支援をえた。なかでも、平成24年11月から25年5月まで、人文科学研究所に招聘した、レオナルド・ブリュッセイ氏（ライデン大学）、聶德寧氏（厦門大学）からの学術的支援は大きなものであった。両氏とともに ジャワのバタビア（現在のジャカルタ）華僑華人らが残した公文書『公案簿』、『開吧歴代史紀』などの史料について検討をすすめた。アモイ大学を拠点にした聶德寧氏の研究蓄積は、近世アジア交易圏における福建人のネットワークを解明しており、研究班にとっては、学ぶところが大きかった。現在も、聶德寧氏はバタビアの華僑華人の公館が残した『公案簿』の編纂と公開を進めておられ、それは第13巻目にいたっている（アモイ大学出版会、京都大学人文科学研究所の図書室に所蔵されている。）。共同研究班では、聶德寧氏から、バタヴィアにおける華僑華人の徴税請負について詳細な報告をいただいている。オランダの植民

地統治にとって重要な財源がこの制度から調達された。また、12月末には、研究班をアモイ大学へも招いていただき、研究会とワークショップを開催していただいた。近年の日中関係の動揺のなかでも京都大学人文科学研究所とアモイ大学東南アジア研究院との学術交流は確固たるものであったことをここに報告したい。

二年間を通して、17世紀以降の「近世アジアの交易圏」の構造が読み取れる可能性が出てきた。中国が伝統的な対外政策であった「海禁」を継続するなかで、なかでも14世紀の明代以降には、利益をもとめるアジアの商人が、アジアの交易圏内に、「港市」、「互市」の制度を作り出していた。商人が取引を通してもたらす利益が、交易拠点を擁する王権にとっても有益であれば、その交易圏はインドから日本にまでその広がりをみせた。調査した福建の泉州にペルシア、アラビア商人の墓石が多く存在していたことはそのことを示唆していた。泉州が「海のシルクロード」の「終点」とよばれる所以がよく理解できた。泉州からは華僑華人が日本を含む東アジアに交易網を張り巡らせた。

## 6. 研究成果の概要（400字程度）

平成25年度は、三か年計画の二年度目でもあり、東南アジアある華僑・華人史料群を確認し、それぞれの研究班員の成果報告にむけての方向性について議論した。まず、方向性の概要の第一は、オランダ東インド会社が、17世紀から18世紀まで「交易」を通して、富を蓄積したことであった。そこでは日本の銀、中国製の生糸、インドの木綿、そして東南アジアの香辛料の取引が重要であった。香辛料はヨーロッパで高く売られた。それゆえオランダは香辛料を引き出すために、アジア間交易の体制を構築する。海禁を続けていた明と清から直接に交易することはできないので、仲介取引（出合取引）を通して、中国物産を東南アジアの港市で仕入れる。とくに中国の生糸は、日本が強く求めた物産であり、日本から供給される銀で取引が成立した（第一環節）。オランダは日本から得た銀を、さらにインドの木綿の購入につかった（第二環節）。このインド産木綿は、東南アジアの香辛料と交換された（第三環節）。こうして得られた香辛料をヨーロッパで販売することで（第四環節）、オランダ東インド会社は、莫大な富を築くのであるが、これらの取引の諸環節において第一環節は決定的に重要であり、この中国生糸と日本銀の取引を担ったのが福建人に代表される華僑華人であった。『公案簿』は、こうした福建人がのこした文書であった。

そして、成果報告の方向性の第二の概要は、オランダのジャワ支配における華人のはたした歴史的な役割である。オランダの支配下にあつて、華人がはたした「徴税請負」の歴史的な意義が明らかにされつつあることである。オランダの統治者と華僑華人との間には、「公館」が存在していた。オランダ人は、「信用できる」華僑華人を選定してから、徴税の請負権を公開入札に付した。多くの入札料を支払った華僑華人に徴税請負が委託される。ここにおいて史料には、「有力な」華僑華人が登場する。人頭税からはじまり、アヘン税、市場税、賭博税、演劇税にいたる、様々な徴税が確認できる。この華僑華人のネットワークはジャワ人の社会生活の深部に浸透した。

## 7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

4月3日（水）J国際ワークショップ、Jakarta's Past: Space, Ethnicity and Urban Development 京都大学人文科学研究所。

12月27日（水） 14:00からアモイ大学東南アジア研究院にて国際ワークショップ（近世アジア広域秩序と華僑華人 The Intra-Asian Trade in the Early Modern and the Over Seas Chinese' role）

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数		延べ人数	
		外国人	大学院生	外国人	大学院生
学内（法人内）	4	5	1	15	3
国立大学	3	4		18	
公立大学	1	1		5	
私立大学	1	1		5	
大学共同利用機関法人	1	1		5	
独立行政法人等公的研究機関					
民間機関					
外国機関	2	2	2	6	
その他					
計	12	14	2	54	3

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例) ・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

論文数	( )	( )
うち国際学術誌に掲載された論文数	( )	( )

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割		
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	( )	( )

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち

主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		主なもの	
掲載雑誌名	掲載論文数	論文名	発表者名